

<p>団体名</p>	<p>NPO法人チャリティーサンタ</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>体験支援を入り口とした継続的な家庭支援の仕組みづくり事業</p>				
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>				
<p>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>「子どものために大人が手を取り合う社会」 社会全体で子どもたちを支え、子ども時代に自己肯定感を育む経験が、環境などの要因に関係なくどの子にも権利として与えられている社会をめざす。子どもたちが何かに立ち向かうとき・悲しみから立ち直るとき、支えになるのは、周囲の大人や社会から「確かに愛されていた」と感じられることだと考える。子どもたちが困難や逆境があっても、エンパワメントできるように「親や周囲の大人からいかに愛されていたかがわかる」機会の創出をするため、すべての大人が子どもたちのために働きかけられる社会をめざすこととした。</p>		<p>連携団体への 現地視察</p> <p>ちょうど寄贈した本の家庭へのお渡し会をやっていたためそこに参加した。</p>				
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>「子ども達に愛された記憶を残すこと」 家族での体験や誰かに認められているといった思い出を届け、自己肯定感や社会との連帯感の醸成に寄与する。 経済的困難な状態にある家庭の子どもにおいては、クリスマスやサンタクロースといった社会的認知度が高いイベントを通じ、家庭が社会と繋がれる入り口としての役割を担う。 また社会の課題解決に賛同する企業・団体と一緒に事業を考え行動をとることで、相互理解を深め包括的・継続的な支援体制づくりにつなげていく。そのことにより、ビジョンにある「社会全体で経済的困難な子どもたちを支える」機運を高める。</p>						
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：事業・事務面ともに安定的な体制を構築する。活動を支えるボランティアという人的資源を十分に生かすボランティアマネジメント体制もとれるようになっている状態。 ●望ましい物的資源：企業連携などにより、家庭へ届ける資源を増やし、また既存の支援団体にも届けられるようになるネットワークを構築できている。 ●望ましい活動資金：当法人の課題は、寄付、ボランティアなどを管理する人件費の捻出である。寄付・会費の獲得をめざすとともに、年間を通じ、安定した自主事業の収入獲得を行う。 ●望ましい情報：（対社会）年に1回以上、家庭の声を確認しながら調査とニュース化を行い、必要な支援とつながることをめざす。（対家庭）家庭に必要な情報を届ける仕組みを構築する。 						
<p>■活動報告</p>			<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>				
<p>①クリスマス活動を起点とした困窮家庭の掘り起こし・分析事業 2841世帯の困窮家庭の申込情報を分析し、困窮世帯から出てきやすいキーワードを分析し、自由記述と紐づけてアラートが出る仕組みを作成した。</p> <p>②年間を通じた体験活動への橋渡し、ならびに支援情報の提供 ①で繋がった家庭には、誕生日支援の情報などを定期的に配信した。また、特に困窮度が高いと申込情報から判断できる家庭（47世帯）には、各地域にある子ども支援団体の情報を提供した。</p> <p>③企業連携ならびに支援団体との連携 ブックサンタ事業の本を活用して全国の子ども支援団体（240団体）と連携を行った。またいくつかの団体には視察訪問し、年間を通じた連携について検討した。</p> <p>④スタッフ研修の実施 3月と6月にボランティアのリーダー層に向けた研修を行った。6月はケースワークを行い、様々な家庭に寄り添う事について検討した。</p>			<p>●クリスマスに繋がった困窮世帯にむけて年間を通じた支援情報・体験を届けるために取り組んだ1年となった。誕生日支援（本のプレゼント・誕生日ケーキ提供）については繋がっている全世帯に安定して届けられるようになっている。家庭からは「今回の支援を通じて子どもが『家族の他にも、自分の誕生日を祝ってくれる存在があること』にととても感謝している」、「心の支えになっている。今は支援を受ける側だが、いつか私も困っている方を支えられる側になりたい」などの声が届いており、年間を通じた支援が親子に良い影響を与えていることがわかる。</p> <p>●支援団体・企業連携では、ブックサンタをきっかけに拡大をすることができた。支援団体については、ただ本を寄贈するだけでなく、そのあとの家庭支援について連携できるように仕組みづくりを行った。</p>		<p>スタッフ研修</p> <p>様々な事情を持った家庭へ寄り添うにはどうしたらいいかをグループに分かれて検討した。</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>		
<p>困窮度の高い家庭を発見するためのキーワード 家庭の申込情報を分析し、特に自由記述でどのような単語が出てきやすいのか集計を行った。こちらのキーワードをもとに家庭の自由記述から自動的に点数を算出し、困窮度の高い家庭にアラートがつく仕組みを作成した。</p>			<p>困窮度が高く身近な支援が必要な家庭に向けて地域の子ども支援団体を紹介する取り組みは、まだまだ対応数が少なく、エリアも限定されている状況である。今後より多くの家庭に安定して情報を伝えられるようにするために、困窮家庭の発見の脱属人化と全国各地の子ども支援団体との連携の強化が必要になってくる。 今年度改修した家庭情報蓄積のシステムを活用しながらブラッシュアップしていき、困窮度の高い家庭をより早く発見し、継続して観察できるようにしていく。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>・年間を通じて家庭に支援情報を届けること ・困窮度の高い家庭を発見しやすくなる仕組みづくり</p>	<p>を達成しました。</p>
			<p>■受益者の具体的な変化（自由記入） 年間の体験支援を届けている中で「次は自分が助ける側に回れるようになりたい」「大きくなったらスタッフになってサポートをしたい」と言ってくれる受益者がでてきており、実際に受益者と一緒に食支援の企画を開催したこともあった。</p>				